

「翔べ 日高から世界へ」
ーグローバルリーダーの育成を目指してー

和歌山県立日高高等学校・附属中学校
校長 池田 尚弘

和歌山県立日高高等学校・附属中学校のウェブページにアクセスしていただき、ありがとうございます。

本校は大正3年（1914年）に日高郡立実科高等女学校が開校されたのに始まります。その後、実科高等女学校は大正8年に和歌山県立高等女学校と改称、大正11年には和歌山県立日高中学校が開校し、昭和19年に和歌山県立日高工業学校が併設されました。戦後の学制改革により、昭和23年に日高高等女学校・旧制日高中学校・日高工業学校が統合され、和歌山県立日高高等学校として発足しました。同年に、定時制と中津分校の前身である定時制船津分校を設置、昭和33年に工業科・商業科を分離して、普通科系の定時制併設校と歴史を重ねてきました。また、平成20年には、和歌山県立日高高等学校附属中学校が設置され、中高一貫の6年を通じた教育にも取り組み始めました。「継がれる伝統・輝く未来」を合言葉に、本年で103年の歴史を持つ日高地方の教育の中核を担う伝統校です。

日高高等学校は、旧制日高中学校時代の「文武両道と質実剛健」の精神を受け継ぎ、文武両道、知・徳・体の調和のとれた人間性の育成、自学自習の態度の涵養、確かな学力の向上を目指しています。附属中学校は「志学」「創造」「敬愛」を基本理念とし、六年間の一貫した教育活動を通して課題を総合的・科学的に解決できる「総合的な人間力」を身につけた、社会に貢献できるリーダーの育成を目指しています。

これらの目標を実現するために、文部科学省スーパーサイエンスハイスクールで培った知見をスーパーグローバルハイスクールの活動につなげるとともに、OECD日本イノベーションネットワークの「地方創生イノベーションスクール2030」和歌山クラスター事務局校としての活動も行っています。この活動は、多様な他者と協働しながら課題解決を図る学習モデルの場であり、本校は「地方創生」と「グローバル化」をテーマに、大学や地元企業等と連携しながら、地方の課題について考え、解決するための実践を行っています。私たちは、この活動が世界的な課題解決を図るグローバルリーダーに必要な資質の向上につながるものと考えています。

本校のこのような活動は、海外の高校生との幅広い交流と研究活動を基盤としています。姉妹校である西安中学、大連市第十六中学（以上中華人民共和国）、フレデリクスハウン高校（デンマーク）、そして創立百周年記念事業の「アジア高校生フォーラム」に参加した16の国と地域の高校の生徒たちと、様々な機会を活用して継続的に交流を行っています。

本校の百年の歴史の重みを実感しながら、新たな価値を創造し、生徒の輝く未来を拓くことができる学校となるよう教育活動の一層の充実を図っています。

今後とも本校へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。